

| | |
|--------------|---|
| Title | 永山亜樹さんの言葉から |
| Author(s) | 中西, チヨキ |
| Citation | 臨床哲学のメチエ. 2017, 22, p. 40-40 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/68180 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

永山亜樹さんの言葉から

中西 チヨキ

はじめに感じたのは、言葉のシンプルさだった。
その言葉はだんだん重ねられていった。
重ねられた言葉が描きだしたのは、共歩から生まれた亜樹さんの発表そのものだった。
亜樹さんの純なところだった。

亜樹さんと共歩された方との共歩は、真の共歩だった。
真の共歩から生まれたもの、それは亜樹さんの言葉、顔の表情、しぐさ、声の響きに現れていた。

発表が終わってすぐ、私ははずんだ声でとなりの友人に、前にいる友人に話しかけていた。
「純な感じがした、感動した」と。

発表が終わって、まわりの人といっしょに「純な感じがした」など、感嘆の声を上げたその場面や雰囲気、今でも鮮やかに甦る。

(なかにしちよき)